

平成29年度 武雄市立武雄中学校 学校評価計画 中間評価の分析・考察と今後の改善策(学校目標を達成するために)

①キャリア教育の一層の充実を図り、学ぶ意義を理解させる。						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	分析・考察	今後の改善策
教育活動	●学力向上	・学習意欲の喚起	・将来の目標や夢を持つ生徒を80%以上にする。 ・主体的、探求的な学習とわかる授業の充実を図る。 ・毎日の家庭学習を1時間以上勉強する生徒を70%以上にする。	・キャリア教育の充実を図り、将来の夢や目標を持たせ、学ぶ意義を理解させる。 ・ペア、グループワークを取り入れた研究授業をしたり、互いに授業を見せ合ったりして力量を高める。 ・課題の与え方を工夫し、家庭学習の習慣化を図る。	・将来の夢・目標に対する全生徒の回答が74.1%と概ね良好だが、進路意識と計画的学習に対する同回答が55.5%と落ち込んでいる。「将来の目標や夢をもつこと」が、学習意欲の喚起に結びついていない。 ・「わかりやすい授業か」への生徒の回答が71.0%であるのに対し、保護者の回答は53.0%と不一致が見られる。 ・家庭学習1時間以上の生徒は目標の70%に達していない。保護者の方が、さらに家庭学習ができていないと感じている。「課題の与え方を工夫する」という具体的方策がまだ十分ではないものと捉える。学習課題や解決方法が「自己の進路や生きる力」という意識に欠け、学校内という枠に収まっていることが予測できる。 ・学習に関する項目では、学年が上がるにつれ、ポイントが低くなっている。	・「総合的な学習」を指導者側が、生徒より強く「キャリア教育の時間」であることを意識することから始める。現行の内容に、各教科、道徳、特活等の学習内容を絡ませていくことが必要である。 ・職場体験を通して、将来の目標や夢を持つきっかけづくりをするとともに、挨拶の大切さを学び、実践させる。 ・校内研などで、家庭学習の習慣化を図る課題の与え方について共通理解を持つ。授業研究会を充実させ、ペア、グループワークを取り入れた研究を進め、授業改善に取り組んでいく。 ・定期テストを構成する各設問に必ず関係する(家庭学習の)課題を、継続的に課せような研究・計画が指導者に求められる。現在実現しているプレテストの拡大版(もう少し長期にわたり、少量ずつ課す)である。 ・月2回の「武中ダービー」の出題内容について、単なる知識、技能「興味をもって取り組めるクイズの要素があり、社会生活と結び付く応用性も感じられるもの」という観点に移行していく。
教育活動	◎教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	・ICTを利活用したわかる授業の実践	・ICT機器を授業に活かすことができる教職員を95%にする。 ・ICT機器を利活用した授業を週1回以上行う。	・教職員のICT利活用研修会を年3回実施する。 ・ICT利活用した授業実践を校内で公開する。	・ICTの活用率が低すぎる。意識して取り組む必要がある。 ・特別支援学級で個別学習にICT活用を取り入れる。 ・ICT利活用研修会及び授業実践について、各1回しか実践できていない。	・特別支援学級で、個の学習に適したアプリを利用する。 ・今後、研修の日程や内容を決めて、計画的に実施していく。 ・教師のスキルアップと教材開発に取り組む。 ・ICT利活用の実践事例を各教科で発表する機会(研修)を持ち、職員の意識向上を図る。
②出番と役割を与え、承認する「開発的生徒指導」を実践する。						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	分析・考察	今後の改善策
教育活動	●心の教育	支持的風土づくりの醸成	・学校内外でのあいさつを推進する。 ・学級に居場所があると感じている生徒を85%以上にする。 ・各学校行事に学級が団結し、達成感を味わう生徒を90%以上にする。 ・人権教育、道徳教育の充実を図る。	・挨拶の重要性を理解させるとともに教師自ら率先して挨拶を行う。また、機会捉え、地域住民の声を生徒に届ける。 ・構成的グループエンカウンター、ソーシャルスキルトレーニングなど実態に応じて計画的に行い、よりよい人間関係づくりに努める。 ・生徒の役割と出番を与え、承認する場を意識して実践する。 ・帰りの会等で、他人を思いやる心など豊かな人間性を育む話をする。 ・人権集会や平和集会等を充実させるとともに、生徒の人権を尊重した指導に常に心がける。	・挨拶について、生徒は83.2ポイントがしていると思っている。保護者、教師の認識は低い。 ・「学級に居場所がある」と感じている生徒など概ね良好な数値であるが、教師の意識した支持的風土づくりの実践が低い。教室で1人で過ごす生徒もいることを教師は把握し、対策を講じる必要がある。 <i>^{*1} SGE:構成的グループエンカウンター(本音を言い合い、互いに認め合う体験を通して、自分や他者の気づきを深め、生きる喜びや勇気を体得する。)</i> <i>^{*2} SST: ソーシャルスキルトレーニング(対人関係や集団行動を上手に営んでいくための技能や行動を習得する。)</i>	・継続して、挨拶をしてくれることを褒める。 ・学年や学級の実態に応じたSGE ^{*1} やSST ^{*2} を取り入れる。また、普段から役割や出番を意識して与え、生徒を褒める。認める場面を意識して増やす。さらに、部活動でも活躍やがんばりを褒め、承認欲求を与え機会を多く持つ。 ・授業の中で、発表、話し合いの姿勢についてルールを全職員が共通理解し、互いの意見を尊重するようにする。 ・“いいとこ探し”をさらに充実させ、意識して帰りの会などで積極的に紹介する。(第1学年)
教育活動	●いじめ問題への対応	いじめの予防、早期発見、早期対応の体制の充実	・月1回いじめアンケートを確実に実施し、いじめに迅速に対応する。 ・「いじめ」の認知について、再度教職員の共通認識を図り、適切な支援・指導及び未然防止に全職員で取り組む。	・道徳の時間を充実させ、人権意識を高め、いじめを許さない生徒を育てる。 ・教育相談部会で気になる生徒は情報を共有する。 ・定期的な教育相談及び気になる生徒と、必要に応じて個別面談を実施する。 ・教職員のいじめに対する研修会を開催し、いじめの具体的事例をあげ、該当するか否かの共通認識とその後の対応・処置等について深める。	・生徒のいじめ問題に対する認識は高いが、生徒、保護者、教師ともに迅速な対応のポイントが上がるよう、教師がいじめ防止に対する普段の意識の高揚を図る必要がある。 ・「道徳の時間」の活用が低い。 ・SC ^{*3} 、SSW ^{*4} との連携が66.7%とやや低い。 <i>^{*3} SC:スクールカウンセラー</i> <i>^{*4} SSW:スクール・ソーシャル・ワーカー</i>	・被害者、加害者といわず、いじめは起こってはいけない、起こさせない意識を高める。また、道徳等で教材を用いた指導を徹底する。いじめ調査に関して、学年での取り組みを密にして、該当生徒には全職員で臨む姿勢づくりを確立する。また、保護者との連絡を密に取り、生徒の変化に気をつける。 ・いじめに対する指導について、保護者への説明を丁寧に行う必要がある。 ・教材「いじめ防止プログラム」を全学級実施する。 ・教育相談部会の取り組みを学年会や職員会議で広く理解してもらえるようにする。 ・短い時間でも個別の教育相談の時間を取る。
教育活動	○生徒指導	組織的な生徒指導体制の充実	・生徒だけの活動をつくらない。 ・不登校の未然防止に努め、不登校生徒を5%以下にする。 ・発達障害を持つ生徒やインクルーシブ教育に全教職員が研修を深め、支援体制の充実を図る。	・すべての教育活動において、早めの臨場指導を心がけ、生徒と関わる時間を確保する。 ・保健室来室者や欠席者、気になる生徒を全職員で把握し、対応する体制を強化する。 ・気になる生徒に対して、初期の段階で問題解決を図り、深刻な問題へ発展しないように組織で予防する。 ・特別支援教育に係る職員研修の充実を図る。 ・個々に応じた「支援計画・指導計画」を作成し、計画的に指導に取り組む。	・生徒の困り感を把握し、自己有用感や自己肯定感が高まる手立てを取っているが69.1%と低い。 ・特別支援教育のより具体的手立てについて求められる声が強かった。教室環境や授業等で生徒への対応を工夫して行われている場面が多く見られるようになってきた。 ・友達のいけない行動に対して、注意ができる生徒は66.3%と低い。 ・学校側と保護者との価値観に差があるのでは(ゲーム、スマホ)	・生徒だけの活動をつくらないう、早めの臨場指導を継続して行う。 ・1年生に「上手に伝える」などSST ^{*2} を学ぶ機会を実践する。また、SGE ^{*1} やSST ^{*2} を取り入れた授業実践を教育相談部を中心に教材を準備する。 ・個別支援計画に基づき、生徒一人一人の理解を深める。 ・生徒の状況把握に努め、支援・指導計画を見直しながら適切な手立てを工夫するようにする。学年、担当職員間で、生徒の情報交換、共通理解を継続して行うようにする。
③コミュニティ・スクールとして、家庭・地域との協働体制の充実を図る。						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	分析・考察	今後の改善策
学校運営	○家庭・地域との協働体制の充実	地域とともにある学校づくりの充実	・「地域に支えられている」と感じている生徒を80%以上にする。 ・地区行事に参加する生徒を60%以上にする。	・地域学校協働本部「武中のちから」と生徒会の連携を推進する。 ・区長会と連携し、地区行事を把握する。部活動においても地区行事優先で参加させ、地域住民の指示のもと生徒に任せられる手伝いなど積極的に活動させる。	・叶武部会(生徒と地域住民の意見交換の場)を開催し、生徒の思いや考えを主体的に地域住民に伝え、行動を起こすことへつながっている。 ・「地域に支えられていると感じている」(74.1%)、「地区行事に参加している」(52.4%)生徒が目標を下回っている。地区行事に対して、徐々に保護者の地域に対する意識も薄くなってきているように思われる。生徒たちも部活動を立てに地区行事に参加したがらない。	・地区行事は、生徒からの情報だけでなく、職員にも伝わるようにし、部活動より地区行事を優先させ、強制的に参加させる。
学校運営	○情報発信	情報発信の充実	・月2回「学校だより」を発行し、情報を発信する。 ・ホームページの閲覧数を増やす。	・ホームページで、学校行事等生徒の様子をこまめにブログで発信する。 ・ホームページのトップページやアップするコンテンツ等を見直す。	・学校だよりを読んでいる保護者は80%を超えている。担任等の便りの発行について意識が低い。 ・ホームページの更新(情報発信)が少ない。	・通信を計画的に発信し、生徒のよいところを紹介する。 ・学校行事をホームページのブログを通して、計画的にアップしていく。
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	分析・考察	今後の改善策
教育活動	●健康・体づくり	望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	・給食を感謝して味わわせる。 ・家庭と協働した食習慣を支援する。 ・早寝、早起き、朝ごはんの推進を図る。	・全職員が4校時終了後5分以内に教室に向かい、準備や配膳、後片付けがスムーズに進むように指導する。 ・生徒に食や睡眠時間についてのアンケート等でチェックしたり、リクエスト給食を実施したりすることによって、食について改めて考えさせる。 ・食に関する授業や給食便りの発行を行う。	・担任の出張等での不在の把握が十分でなく、指導が遅れる場面も見られた。 ・「毎日決めた時間に起きたり寝たりしている」生徒が66.7%と低く、保護者の79.3%と差が大きい。また、職員も「意識を高めるよう指導をしている」が66.7%と高くない。 ・体調不良で保健室に来室する生徒の多くは朝食抜きである。 ・早寝、早起き、朝ごはんの実施結果が前年度より下回っている。	・担任を中心に早めの給食指導ができていますが、副担任も各学年の階などで早めに指導する。 ・朝食の大切さを伝え、意識を高めるような食育の授業を担当へ提案し、系統的な食育指導を実践する。 ・栄養教諭や生徒会給食部と協力し、朝の会、帰りの会で読み物資料や食育だよりを制作し、配布する。
学校運営	○危機の未然防止	安全・安心な生活環境の確保	・学校は、安心して過ごせる学校だと実感できる生徒を80%以上にする。	・毎月の安全点検を確実に実施し、避難訓練・交通安全教室等計画的に行い、生徒・教職員の安全の確保、事故防止に対する意識を高める。 ・登校時における交通指導を毎日行い、交通事故防止に努める。	・生徒の77.4%が安全で安心して過ごせる学校であると回答しており、今年度の具体的目標を達成させることはできていないが、概ね良好な結果となった。 ・安全点検や避難訓練等を通じて、教職員の危機管理に関する意識を高めることができた。	・継続して、学校内外の事故防止に努めるとともに、生徒が安心して過ごせると感じる生徒を増やす。 ・部活動の終了時刻を厳守する。

●は共通評価項目のうち必須項目、◎は共通評価項目のうち特定課題、○は独自評価項目